

1 学校教育目標

一人一人が「輝き」、 「主体的」に活動する児童生徒の育成	(校訓) 自立 元気 ともに伸びる
------------------------------	-------------------

2 本年度の重点目標

<p>(1)命と安全を守り、生活年齢に応じた人権が尊重され、自己肯定感や所属感、成就感が育まれ、人権意識を高められる学校文化の醸成に努める。</p> <p>(2)個々の障害の状態や特性や発達段階等を的確に把握、課題を明確にし、合理的配慮にもとづく「個別の教育支援計画・指導計画」により、個々の持てる力を引き出し、高める指導と支援体制を確立し、学校教育目標の具現化を図る。</p> <p>(3)心身の調和的発達と個性の伸長を図るとともに、社会の一員として主体的に生きる意欲や態度、知識、技能を身につけさせる。</p> <p>(4)地域の学校や地域社会との交流、共同学習、ふれあいを通して、互いを尊重し合いながら、共に生きる意欲と態度を養う。</p> <p>(5)センター的機能の充実を図り、他校の幼児、児童、生徒の教育に関して必要な助言や支援も含めた、組織的な対応が可能な体制づくりを進める。</p>
---

3 自己評価結果(達成状況)【A：達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	R3年評価項目	R3年 評価取組(達成)の状況	評価	R3年 改善の方策
児童生徒理解	<p>①学校と家庭・各関係機関との連携による学校生活の充実</p> <p>②個別の教育支援計画・指導計画の作成・評価による指導支援の工夫と改善</p> <p>③職員全体での児童生徒の共通理解による組織的な指導の充実</p>	<p>①担任と保護者との連絡帳等を通しての連絡を取り合うことで、学校・家庭での連携をとることができた。各機関とは、日々の放課後等デイサービスへの引き渡し時や、保育所等訪問支援事業を通して、情報を共有し連携を図ることができた。</p> <p>②保護者と連携し個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に取り組むことができた。作成後も、保護者と連絡を取り合い、改善・継続していくことができています。</p> <p>③クラス会や学部会で、日々の振り返りを行い、児童生徒の様子共通理解を図ることができた。</p>	A	<p>①更なる情報交換を進めるとともに、保護者に寄り添った対話を今後も継続していく。必要に応じて、学校・保護者・関係機関との会議も検討していく。</p> <p>②今年度は、個別の指導計画作成に際し、自立活動の目標決定のための作成手順について、校内で共通理解ができた。来年度以降、その活用を進める。</p> <p>③児童生徒への指導・支援の充実に向け、日々の振り返りや教師間の情報共有をより細やかに行う。また、個々の長期短期目標に向けた具体的な支援方法や手立てを日々手直ししていき、実践の充実を図る。</p>
学習活動	<p>①一人一人に応じた自立や社会参加を目指した指導の充実</p> <p>②児童生徒が主体的に活動できることを目指した指導力の向上</p> <p>③ICT活用を含めた教材研究や指導形態の研修の実施</p>	<p>①実態把握をもとに自立や社会参加を意識して、具体的で分かりやすい目標設定を行い、絶えず振り返りや共通理解を図りながら、指導・支援できるように取り組んだ。</p> <p>②計画的に授業研究を実施し、講師の指導助言を活かして、目標や支援の確認や振り返り等、児童生徒が主体的に活動できる授業を目指した。より子どもの実態に即した「動作」「環境」「コミュニケーション」を観点に3グループを作り、1回30分月一回程度、継続的に指導改善に取り組んだ。</p> <p>③タブレットやモニター等のICTを活用したオンラインや各教室間を繋ぐリモート授業を行い、視覚的に分かりやすい授業を目指した。</p>	A	<p>①今後も児童生徒の自立や社会参加に向け、多方面からの情報による実態把握を行った上で、支援や指導法の見直し、最小の支援で自主的に学習できる指導を目指す。</p> <p>②児童生徒が主体的に学習や生活に取り組めるよう、引き続き授業研究に取り組む。また、ミニ研修やグループ研修を継続し、指導力の向上に努める。</p> <p>③タブレット等のICTを活用したオンラインやリモート授業など、新しい学習形態の指導についての研究もさらに進める。また保護者も巻き込んでタブレット活用を共に進めていったり、研修や参観の機会をできる範囲で設定したりする。</p>
道徳・人権教育	<p>①自己肯定感や所属感・成就感の育成</p> <p>②個々に応じ将来の社会参加に向けた人権感覚の育成</p> <p>③全体計画に基づく計画的指導</p>	<p>①②学習や行事、学級児童生徒会活動などを通して協働、経験の拡充をはかることで成就感、所属感、人権感覚の育成に努めた。</p> <p>③学級活動の時間を使って、日頃の生活の中での行動の振り返りや校外学習前にルールやマナーの学習するなど計画的に道徳の学習を行うことができた。</p>	A	<p>①縦割りグループ活動など学部をこえた異年齢活動や小集団活動などのふれあい活動設定を試みる。教職員は、児童生徒に対し、自己肯定感を高めることを意識して関わる。</p> <p>②児童生徒がなじみやすい道徳的な読み物を取り上げたり、体験活動ができるようなロールプレイなどを集会や学級活動の中で行ったりする機会を増やす。</p> <p>③道徳科以外の授業や指導においても道徳、人権教育を意識して学習に取り組めるように全体計画の「見える化」焦点化を検討する。</p>
交流及び共同学習	<p>①相手校や関係機関との共通理解と児童生徒の実態に即した交流及び共同学習の充実</p> <p>②自他理解やインクルーシブ教育の意義等の啓発</p>	<p>①居住地校交流や地域校交流を相手校と連絡を取りながら進めることができた。コロナ禍の中、時間や回数の制限をしなければならぬ状況もあった。また、保護者には意向を確認したうえで実施することができた。</p> <p>②共生社会を考える講演会に専門家を講師に招き、行った。講演会は学校での対面形式に加え、リモートで保護者や関係者を結び行い、内容・開催形式共に好評だった。</p>	A	<p>①コロナ禍の中、回数や時間数に制限がかかっているが、充実した交流を進めるため保護者の意向確認や相手校への情報発信をより丁寧に行っていく必要がある。感染症対策の為にリモートでの交流を実施した児童生徒もいたが、実際に相手校へ出向いてほしいという要望もあるため、今後の検討課題である。</p> <p>②現在の社会情勢も踏まえ、今後も対面の講演会とリモートでの実施を並行して行っていく必要がある。</p>

<p>学校行事</p>	<p>①授業時間数の確保及び感染防止の観点を考慮した行事の実施 ②行事を通じた児童生徒の自立と社会参加に向けた意欲や態度の育成 ③児童生徒一人一人の特性や発達段階に応じたねらいの設定や取組の工夫</p>	<p>①練習時間数を見直し、普段の授業の中でできることに取り組んでいることを生かして行事に臨むことができた。昨年に引き続き、来校者だけでなく児童生徒へも検温消毒マスクの徹底等を図ることができた。 ②行事に向けての活動を通して、他者に関わり互いに認め合い高め合おうという態度の育成を図った。 ③児童生徒一人一人に応じた課題を設定し支援の工夫を行い、頑張ろうとする意欲や達成感を持てるよう取り組んだ。</p>	<p>A</p>	<p>①職員間で行事の成果・課題を共通理解し、次年度に向けての方向性を検討して取り組む。 ②児童生徒にとって、学習の成果を友だちや保護者の前で発表することは、大きな自信になり、自立への一歩となると思われる。今後もコロナ禍の中での行事の在り方、実施方法を考えながら実施していきたい。 ③今後も、保護者と情報共有しながら児童生徒の実態把握を丁寧に行ってねらいの設定や支援の工夫を行う。</p>
<p>家庭・地域との連携 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮</p>	<p>①児童生徒のニーズに応じた情報提供及び研修会の実施 ②将来に向けた学校・家庭・地域・関係機関との連携及び教育相談の充実 ③本校の教育活動や特別支援教育に関する取組等の情報発信</p>	<p>①②センター的機能として、進路や性教育、服薬指導等ニーズに即した研修会をそれぞれの担当者が中心になって計画し、実施した。 ①②進路研修会に特別支援学校高等部と障害者総合支援センターから講師を招聘し、保護者が進路に関する情報提供を得ることができる機会を設定した。 ②近隣の特別支援学校高等部と連携し、進学に向けた学校見学体験や説明を本校中学部3年生に個別対応を進めることができた。 ②本年度も本校コーディネーターが、市内の学校園所や市健康増進課等と連携して相談活動を行った。 ②就学進学希望検討されている保護者・児童に対して、感染症予防及び対策のもと学校見学体験を実施した。 ②進路や薬についての研修会をオンラインで家庭とつないで行うことができた。 ②③連絡帳や電話、懇談や家庭訪問、その他の機会に保護者と密に情報交換を行った。保護者と共有した情報を活かした家庭と学校、関係機関の連携に向け学部、学校、関係機関での情報共有に努めた。 ③学校通信、学部通信、ほけんだより、ホームページ等で定期的に情報発信をした。</p>	<p>A</p>	<p>①感染防止に関して十分検討した上で、センター的機能としての研修会等の実施を継続する。 ①性の教育研修会に関して、保護者対象に行ってきたが、中学部生徒の参加体験出来る講演会について講師と相談の上、設定していく方向で検討する。 ①②進路研修会や特別支援学校高等部のオープンスクールの案内等、保護者が進路についての情報収集ができる機会をより充実させていく。加えて、中学部の保護者生徒には年度初めの懇談等で特別支援学校高等部の見学体験の案内等、個々に応じて見通しがもてるよう計画していく。 ③特別支援学校のセンター的機能について、年度の初めや各担当者の集まりの機会等をとらえて市内学校園の教師に周知し、活用を促す。また、研修会等の案内も継続する。 ③特別支援教育に関わる講演研修等の情報を収集し、教職員及び保護者にさらに啓発の充実を図る。 ③家庭との情報共有を密にし、連携して教育活動に取り組むことを継続する。 ③感染症対策をとりつつ、家庭・地域への本校教育活動についての発信の内容や方法を工夫する。</p>
<p>健康・安全指導</p>	<p>①児童生徒の実態に応じた健康管理と健康指導の推進 ②児童生徒の実態に応じた保健に関する研修の充実 ③安全・安心に関する教育・研修の充実及びより実践的な訓練の実施</p>	<p>①本年度も昨年度に引き続き、感染症予防を中心に行政からの指導事項を教職員間で共有した上で、健康管理及び健康指導を計画的に行った。日々の生活の中で、検温及び健康観察、家庭連絡等を行いながら、児童生徒の健康管理に努めた。日常生活の指導の中で、手洗いやマスク着用など感染症予防の基本を身につけられるよう努めた。 ②保護者や教職員に対して児童生徒の実態に応じた保健に関する研修を計画的に実施し、理解を深めた。オンライン会議システムを使って、学校と家庭及び講師の事務所をつないで研修できる仕組みを作り、オンラインでの保健に関する研修を実施した。 ③地震や火災を想定した避難・誘導訓練及びプール指導中を想定した救急救命訓練に取り組んだ。児童生徒一人一人について、医師からの指示書や与薬依頼書を保護者や主治医に丁寧に確認し、緊急時の対応及び救急体制について全職員で情報共有・共通理解を行った。また、それをもとに、緊急時の連絡・救急体制についての研修、検討を進めるとともに、全職員の共通理解を図った。</p>	<p>A</p>	<p>①引き続き、児童生徒の実態に応じた健康管理及び健康指導を計画的に行う。 ②児童生徒の実態に応じた保健に関する研修を継続して行う。 ③多様な場面を想定し、緊急時の避難や誘導を安全に行えるように、研修・訓練を継続して行う。児童生徒の危機管理能力を高めるために、より実践的な訓練及び教育を行う。</p>
<p>施設管理 教育環境整備</p>	<p>①児童生徒の安全安心な教育環境づくり ②児童生徒の実態に即した機器整備及び管理 ③感染症予防に向けた備品等整備及び取組の継続</p>	<p>①定期的にの美化作業や安全点検を実施し、できるだけ早く整備や修繕を行った。 ②オンライン授業や密にならない形態での授業実施に対応し、各教室に大型モニター等を設置し効果的活用を図った。 ③感染症対策としてプレイルームの抗菌マット、パーテーション、加湿器等の整備とともに消毒作業等感染症対策に努めた。</p>	<p>A</p>	<p>①施設、備品の経年劣化への対応を計画的に行う。児童生徒の使用頻度の高い運動場の遊具やプレイルームの吊り下げ感覚遊具の点検をより丁寧に行う。 ①コロナ禍ではあるが、地域の協力、支援など人的教育環境整備も含めて、きめ細やかで温かい教育環境整備に努める。 ②より使い勝手がいいよう、機器や教具の保管方法の見直しを行い、実態に即した機器、機材整備を進める。</p>